

第45回白門祭

多摩キャンパス、
11月3～6日

フードコンテストで 味・量・雰囲気審査 約130店がアイデアと 営業努力などを競う

多摩キャンパス・メインストリートのペDESTリアンデッキ下に居並ぶ出店。毎年、『白門祭』の見慣れた光景だ。大半は食べ物を販売する出店で、今年の『第45回白門祭』(11月3～6日)には、200を超す出店が並び、うち約130店が「味と量と雰囲気」を競いあった。(学生記者 豊福三晃 文学部3年)

人気度を競う「フードコンテスト」は、一昨年に次いで今年も3回目。白門祭実行委員会フードコンテスト担当の法学部3年、小林美波さん(成蹊高校出身)は、「去年は行わなかったコンテストでしたが、今年は広報に積極的に力を入れました」と、ペデ下のにぎわいをみながら手ごたえを感じていた。

「味・量・雰囲気」の3つの部門で審査される。200店以上の出店の中から、コンテストにエントリーしたのは約130店。11月3～5日の3日間で投票は集計され、総合ランキングと部門別の各1～3位が発表され、白実委から豪華賞品がおくられた。

総合ランキング1位は「Disneyクレープ」、2位は「やきそば二郎」、3位は「たな角煮え」。小林さんは「広報・宣伝のおかげで、大変数多くの投票を集めることができました。1～3位に選ばれた出店は、いずれもダントツの票を集め、人気が出ました。そして、これからも白門祭における数多くの飲食企画を横断するダイナミックな企画として出店される団体の方や来場者の方に、より楽しんでいただけたらいいです」と今年のコンテストを振り返った。

『白門祭』最終日の11月6日、小林さんに案内してもらいながら、総合ランキング1～3位の出店を訪ね取材した。

★1位「Disneyクレープ」
まず訪ねたのは、見事1位に輝いた「Disneyクレープ」。デイズニーキャラクターを用いた愛らしいデザインの出店が人目を引く。思わず足を止めたくなった人も多いことだろ



味・量・雰囲気のランキング

う。圧倒的に女性に人気で、制服姿の女子高校生らが行列をつくっている。

店をきりもりしていたのは会計サークルの有志で、普段は公認会計士や簿記試験などの資格試験の勉強に励んでいる。毎年、白門祭には1、2年生の有志が集まって出店を出しているという。

「お客さんが目を止めてくれるように、出店の装飾だけでなく、事前につくったクレープを写真に撮って、一目でわかるメニュー表をつくりました。男子はそれを持ってキャンペーン

ス内を回り、勧誘の営業活動をしています」。こう話すのは、商学部2年、細谷真純さん（淑徳与野高校出身）。

メニュー自体にもこだわっていて、モンブランやミルフィーユなどの5種類のクレープを用意して、期間中に1800枚（1枚250円）も売り上げるといふ。

「その場でクレープを焼いて、焼きたてを出すようにしている」と細谷さん。フカフカ、ホカホカのクレープが人気の秘密でもありそうだ。さらにクレープを買った人には、ホットコーヒーを無料で配るなど、うれ

しいサービスもしている。こうした営業努力が、見事グランプリに輝いた要因なのだろう。

☆2位「やきそば二郎」

次に訪ねたのは、総合ランキング2位の「やきそば二郎」。多くの出店の中でも、ひととき盛り上がりを見せている。お客さんは長い列をつくり、くねった列をたどるとスタップが「最後尾はここ」の看板を掲げて、お客さんを誘導している。

「やきそば二郎」は、『炎の塔』に入っている法友会のメンバーとその友人などで構成されていて、さらに本学を卒業した社会人も大挙祭を盛り上げようと駆け付けていた。今年度は、法学部3年、堀内翼さん（札幌光星高校出身）で3代目となった。

「他の店舗と差別化を図るためにうまさ



山盛りのもやしがかぼれ落ちそうな「やきそば二郎」の焼そば

より視覚的にしている」という話の通り、見てみると、焼きそばの上に盛られたもやしなどの野菜がてんこ盛りで器からこぼれそうだった。焼きそばは、平べったい形状のパックに入れられているのが普通だが、「やきそば二郎」のはどんぶり状の器（1杯399円）だ。それだけに、山盛りででき、見た目に量の



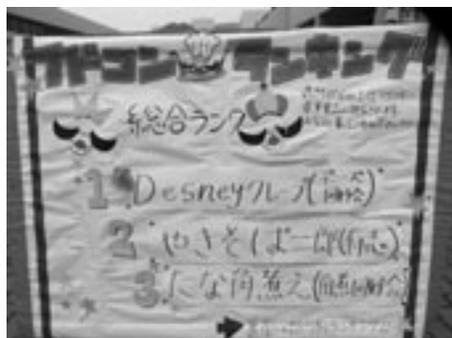
一気に場を盛り上げる「じろりあんフェスティバル」

続いて総合3位の「たな角煮え」を訪ねた。白門祭期間は、原則として飲酒は禁止となっているが、特別に7号館4階と屋外の法学部棟前にあるスペースを使って、飲酒エリアが設けられていて、「たな角煮え」はそこに outlet していた。

このエリアの入り口では厳格に来場者の年齢をチェック。エリア内では節度を守った飲酒を義務付けており、白門祭の開放感もあってか在校生のみならず、卒業生の人気

のコーナーになっている。「たな角煮え」の前には、長い行列ができていた。体育同好会のフットサルサークル「country」が白門祭期間のみ「角煮同好会」として outlet している。経済学部3年、豊野雄さん（新潟県立六日町高校出身）は、「一番大変なのは、下準備でした」と話す。多いときは一日数百人のお客さんが足を運ぶため、夜も遅くまで仕込みを行わないと間に合わないという。

人気メニューの大根は学祭期間で100本、卵は1400個以上も売れており、青空の下でビールといっしょに食べる角煮（1杯250円）



フードコンテスト総合ランキング

多さをアピールできるといわけだ。「白門祭期間だけでもやしは1トン以上使う。近隣のスーパーからもやしが無くなってしまふほどです」と堀内さんは真剣な眼差しで話す。

加えて今年は来場者参加型の新企画で、集まった人を楽しませた。通常の倍盛られた焼きそばをいかに早く食べきるかタイムを競う企画で、名付けて「じろりあんフェスティバル」。

競争が始まると、大きな人だかりができ、「頑張れ」の声援に交じって、カメラを構えた人から笑い声も。大食いに自信のある学生が数多く参加して盛り上がるなか、「やきそば二郎」のモチーフとなったラーメン店「ラーメン二郎」の店員さんも企画に参加するサブプライズもあった。

☆3位「たな角煮え」



行列が絶えない「たな角煮え」

は大人気だ。そんな人気メニューを支えているおいしさの秘密は、秘伝のノートにある。味を後輩に引き継ぐために書き溜めた調理ノートは、3冊にも及んでいる。豊野さんは「今年もリピーターも多くなって、仕込みを頑張った甲斐があった」と満足そうに話した。